

「名乗り」の過程に現れる在日朝鮮人青年のアイデンティティ

－ 体験と情緒のマイクロな記述から －

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
臨床心理学領域
洪潤和

在日朝鮮人のアイデンティティについての研究は、主に社会学や教育学、文化人類学の分野で盛んにおこなわれてきた。そして、現代に生きる在日朝鮮人について語られるとき、もっぱら言及されるのが、1世から2、3世への世代交代を背景にした在日朝鮮人のアイデンティティや生き方の「多様化」である。しかし、在日朝鮮人のアイデンティティについて考えるとき、アイデンティティに影響を与えられる、家族や社会、国家といったマクロな要因と合わせて考えられることは少ない。また、アイデンティティを関係性において捉えている研究も少ないと思われる。

本研究の目的は、在日朝鮮人青年の「名乗り」というマイクロレベルでの日常の体験に着目し、それらをそこで生じる情緒も含んだ上で微細に描写していくことにより、周囲との関係性の中から現れる在日朝鮮人青年のアイデンティティの形を描き出すことである。それにより、在日朝鮮人のアイデンティティについて、異なる語り方を生成しようと試みた。また、このような微細な記述によって、従来の研究からはあまり見えてこなかった、在日朝鮮人青年の主体としての能動性や力、そして状況と相互交渉してゆく過程の中で、アイデンティティが立ち現われたり、反対に揺らいだりする多面的な姿を「名乗り」のプロセスの中で捉えようと試みた。さらに、在日朝鮮人青年を取り巻く家族や社会、国家といった、マクロレベルでの力動についても焦点を当て、それらがどのように個人人の「名乗り」の中に表れているかという点についても合わせて検討した。

本研究では、6人の在日朝鮮人青年に「名乗り」に関するインタビューを実施し、それをマイクロ・エスノグラフィーの手法を用いて分析した。そこから見えてきたのは、周囲の人々の反応や認識にさらされながらも、時には真正面から抵抗し、時には周囲の日本人に理解してもらえよう試行錯誤し、時には葛藤や衝突を避けるために回避するといった在日朝鮮人青年の姿であった。また、在日朝鮮人青年のアイデンティティを語る上で、回避や抵抗などの能動性だけでなく、自らの生き方を外的要因に決められることなく、自らの意志を持って選択するという主体性が重要であることも示唆された。さらに、「名乗り」の体験の中に、そして在日朝鮮人青年と日本人との間の関係性、そして家族との関係性の中に、日本社会の在り方や朝鮮半島と日本を巡る国際情勢、そして歴史というものが投影されている様もうかがえた。

本研究から、在日朝鮮人青年が歴史と自己とを照らし合わせながら、今ここで自分が何を選択するのかを主体的に決めていく過程や、「名乗り」という日常の中の小さな「たたかい」といった、青年たちのマイクロレベルでの日常の中に、そして実践の中に、在日朝鮮人が自らを語る言葉を豊かにしていく可能性が秘められていると考えられた。